

CSRへの取り組み

東京ドームグループでは、誠実で責任ある企業活動を推進し、経営の健全性・透明性を高め、社会的信頼の向上と地域社会との共生を図るため、3ヶ年中期経営計画「Scale-up」の経営課題のひとつに「社会的責任（CSR）の追求」を設定し、具体的なアクションプランとして以下の4つを実行中です。

1. コーポレート・ガバナンスの向上

・取締役任期・報酬制度の見直し

コーポレート・ガバナンスの健全性と透明性の向上を目指し、取締役任期の短縮化、役員退職慰労金制度の廃止を行いました。

・内部統制システムの充実

内部統制の要として「リスク管理委員会」と「コンプライアンス委員会」を整備していますが、持続的な教育でシステムのさらなる充実を図ります。

・日本版SOX法への積極的な対応

東京ドームグループを挙げての対応が必要なため、ITシステム・コアビジネスの業務・決算プロセスなどを中心に業務の改善につなげて、企業価値を高めるシステムの構築を目指します。

2. 温暖化対策への積極的な対応

リスク管理委員会の下部組織である環境対策小委員会の温暖化対策チームを中心として、温暖化対策の活動を行っています。

・東京ドームシティ各施設の環境保全

エネルギー消費量の大きい東京ドームシティの各施設では、温暖化対策を含む環境保全に取り組んでいます。上水道の使用量を削減する雨水再利用中水道システム（東京ドーム）や、厨房のほか、CO2排出量の削減のため、下水の廃熱を有効利用する地域冷暖房システム（東京ドームホテル・黄色いビル・青いビル）や深夜電力を使う氷蓄熱システム（東京ドームホテル・ラクーア）などを導入しています。

・「都心の緑化スペース」ミーツポート

ミーツポート3階部分のガーデンは可能な限り緑化し、夏は涼しく冬は暖かな空間を提供していますが、これはJCB HALL内部への熱負荷も軽減させます。



「都心の緑化スペース」ミーツポート



黄色いビル下の地域冷暖房システム



東京ドームホテル、ラクーアの氷蓄熱システム

さらに、透水性・保水性の高い舗装材の採用で、ヒートアイランド現象を抑制しています。

3. 買収防衛策の導入

株式会社東京ドームの企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させて株主共同の利益を確保するため、敵対的買収行為の発生時に、株主に対する情報開示・株主の検討期間の確保・株主意思の尊重を主眼とする事前警告型の買収防衛策を、導入しております。

4. 地域社会との共生

東京ドームシティの周辺地域を清掃するクリーンキャンペーン活動は、地元への貢献に加えて、参加した社員に共通の目的に向かう一体感をもたらすほか、東京ドームグループのブランドイメージ向上にもつながります。



財団法人野球体育博物館(文化事業)への展示スペースの無償提供(野球体育博物館)



地域の美化活動(東京ドームシティ周辺の美化活動)

環境に配慮した、ミーツポートの施設づくり

ミーツポートは、計画時より「人と地球環境に優しい施設づくり」を目指し、環境負荷の低減と省エネルギーを実現しています。環境に配慮した主な仕組みは次のとおりです。

■ 熱負荷の低減

JCB HALLを半地下化し、外壁を通して伝わる熱の負荷を低減

■ 自然エネルギーの活用

夏期と冬期を除く中間期(春期・秋期)に冷涼な外気を取り入れ、JCB HALLの冷房用として利用

■ 省資源

中水再利用システムによって、厨房の排水などを雑用水として再利用し上水道の消費量を削減したほか、緑化スペースの散水に再生水を利用

■ 排熱の有効利用

JCB HALLの空調用給気と排気を熱交換し、空調負荷を低減

■ リサイクル材を使用

建物の構造材として鉄スクラップを原料とする電炉鋼を採用したほか、JCB HALLの内装材に、東京の木「多摩産材」の間伐材をチップ化した木繊維セメント板を使用

■ 大気汚染防止

熱源機器に排ガスの低NOx化対策を特殊仕様として施し、法規制以上にNOxの排出量を抑制

■ 雨水の流出抑制

雨水貯留や浸透システムにより、雨水インフラへの負荷を低減

■ 廃棄物の処理

ゴミを圧縮し、溶融装置によって減容化